

学校だより



『啐 啄』



大津市立瀬田中学校 校長 奥村 公英

校庭も色鮮やかな木々やすっかり葉を落とした木々など様々ですが、木枯らしの吹く本格的な冬の訪れを感じさせる季節となりました。大津市でもすでにインフルエンザが流行し、学級閉鎖をしている学校もあります。手洗い・うがいを励行し、十分な栄養と休養を取って、体調を整え、免疫力を高めたいものです。

さて、カレンダーはいよいよ最終ページ、師走を迎えました。今年一年の終わりですが、学校も2学期の締めくくりの時期に入ります。保護者の皆様には、保護者懇談会で生徒の様子や学習状況等について担任等がお話しさせていただきます。とりわけ、3年生は進路のことを中心にお話させていただくことになります。寒い中ですが、どうぞよろしくお願いいたします。良い年を迎えるためにも、生徒たちにはゆっくりと自分の足元を見つめ直しつつ、元気に冬休みを迎えてもらいたいと願っています。



特別支援学級生徒 大活躍 !



11月29日(金)、大津市民会館で「第47回大津市特別支援学級・学校 合同学習発表会」が盛大に開催されました。中学校南部ブロック(粟津中・北大路中・石山中・南郷中・田上中・青山中・瀬田中・瀬田北中)の一員として、「えんとつ町のプペル」という演目で、ゴミから生まれたゴミ人間のプペルと煙突掃除をするルビッチの友情と家族愛を表現豊かに上演しました。瀬田中学校は第三場面の中で、プペルとルビッチがハロウィンのお祭りを終え、町の子どもたちが仮装した衣装を脱いでいる時、プペルが仮装をしているわけではなく、ゴミ人間であることがわかった場面を臨場感豊かに表現していました。大きな、よく通る声でセリフも言えていましたし、演技も抜群でした。二学期に入って、瀬田中学校生徒だけの練習だけでなく、他の学校の生徒と一緒に粟津中学校をはじめいろいろな学校で熱のこもった練習を続けてきた成果が十分に発揮されていたように思います。また、フィナーレは「ビリーブ」という曲をみんなで合唱し、大津市の特別支援学級・学校のまとまりを感じることができました。そして、瀬田中学校生徒としての誇りと自信に満ち溢れ、とてもすばらしい学習発表会でした。



(演劇中の様子)



(フィナーレの様子)

生徒会執行部 新体制でスタート！！

10月11日、生徒会選挙が行われ、新生徒会長に竹村ゆきのさん（2-7）、副会長に筒井潤寧さん（2-4）、小林奨真君（1-7）が選ばれました。その後、執行部の募集が行われ、積極的に多くの生徒が執行部に応募し、会長・副会長を含め総勢30名の新執行部員が誕生しました。認証式を行い、私から激励の言葉として「瀬田中学校の代表として、誇りをもって取り組んでほしいこと」や「一緒によりよい瀬田中学校を創り上げていこう」との話をしました。生徒たちも真剣に聞いてくれました。



今年度については5月に採択された生徒会活動方針に基づき、取り組みを進め、来年度の生徒総会で本生徒会執行部としての活動方針を明確に示し、今まで築き上げられてきた瀬田中学校の伝統を守りつつ、新しい文化を創造してくれることを期待しています。

職場体験学習 ～大変お世話になりました。ありがとうございました。～

職場体験学習として11月11日（月）から11月15日（金）までの一週間、2年生が地域の各職場で大変お世話になりました。ありがとうございました。約100か所の職場で生徒たちは働くことの楽しさ、厳しさを体感させていただきました。私もいくつかの職場に寄せていただき、実際に生徒たちが活動している姿を目にしましたが、真剣なまなざし、緊張感のある態度、学校とはまた違う表情などを見ることができました。そして、職場体験終了後の記録用紙に「保育園や幼稚園は、ただ園児と遊ぶだけのようなものだと思っていました。でも、園児の安全や健康を



考えて、たくさんの仕事をしなければならないことを知りました。（この職場体験学習で）先を見て行動することを身に付けました。常に先のことを考えて行動したいです。」との感想を寄せてくれた生徒もいます。職場の方々からも、「元気によく頑張ってくれている。」「数日経ち、指示された仕事を終えると、自ら何をすべきか考えて行動できるようになった。」「与えられた仕事を終えると、『次の仕事は何ですか。』と意欲的に取り組んでくれている。自分も瀬田中学校の卒業生だが、このような後輩がいてくれることを誇りに思う。」「来年も瀬田中学校は受け入れます。」など、お褒めの言葉をたくさんいただきました。

その一方で、「真面目に取り組んでくれているが、もう少し大きな声で対応してくれるとさらによい。」とのアドバイスをいただき、その後の取組に活かしていたとも聞いています。そして、事後学習として、12月4日（水）に各クラスで学習発表会を開催しました。

◇「啐啄」の意味について

「啐」は鶏の卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音、「啄」は母鶏が殻を外からつつき破ることで、広辞苑によれば、①「禅宗では師家（しけ）と弟子とのはたらきが合致すること。」②「逃（のが）したらまたと得がたい好機」を意味します。学校・家庭・地域が協力して成長する子どもたちを適時適切に支援できればとの思いのもと、学校通信を「啐啄」と名付けさせていただいています。

